

平成 20 年度

第 1 回九州圏における地域の存続・再生に関する調査検討委員会

【議事要旨】

日時：平成 20 年 12 月 11 日 10:00～12:00

八仙閣 4 階 雅の間

<出席委員>

小川委員長、北園委員、吉武委員、山田委員、森北委員

- ◆ 規約（案）：了承された。
- ◆ 調査の実施方針：了承された。
- ◆ 調査内容：

(1) アンケート調査・先進事例調査

- ・ 矢田アドバイザーより「高齢化集落の対策には、地縁、血縁、支援の 3 エンのコミュニティが必要であり、今回の調査でその実態や関係性などについて調査していただきたい。」と意見をいただいている。(小川委員長)
- ・ 数量的なデータを集める調査としてアンケート調査を考えている。それと同時に、質的な調査として、集落のワークショップと取り組み事例をできるだけ集めようと考えている。(小川委員長)
- ・ 今回のアンケート調査では、集落の傾向を網羅的に捉える必要があるため、対象集落の抽出範囲の下限を設けず、分析過程で世帯数による傾向などについて見ていく方針。(小川委員長)
- ・ 医療施設等についても設問では、集落の中に施設があるかではなく、通えるところにあるかを聞くべき。(吉武委員・小川委員長)
- ・ 集落アンケートの設問の支援者の選択肢では、団体のイメージが強い。様々な応援団が個人的な集団の形態で活動しており、団体の形は取っていない場合がある。それぞれの個人的なボランティア活動や機関等の動きも把握する必要がある(吉武委員・小川委員長)

- ・ 公共サービスの充実だけでなく、住民の身近な活動や、それを支える民間の活動の中から元気を出していくストーリーを考えることも大事である。(小川委員長、山田委員)
- ・ 元気を出していくためには、集落の外との接触、交流に着目する必要がある。その際、日帰り型の交流、滞在型の交流に分けて検討すべき。(小川委員長、山田委員)
- ・ 地域に観光スポットがあれば、資源利用を考慮してアンケートの設問に加える。(北園委員)
- ・ 山間では、災害に対する不安があるので、安心・安全の面も設問に加える。(北園委員)

(2) ワークショップ

- ・ 対象地域が一ヶ所では、今後考えられるアイデア集や事例集のバリエーションが弱くなり、またワークショップの回数が1回のみでは計画立てられない。ワークショップで計画まで出来ても、実施されなければ、逆に地元の人々の元気を削ぐ結果になりかねないので注意が必要。(吉武委員)
- ・ 外部との接触で、日帰り型(九州本土側)・滞在型(離島側)を検討することが必要。今年のワークショップの対象地はどちらか一つでも良いが、次回のためにもう片方の準備を進めるべき。(山田委員)
- ・ ケーススタディの面では、限られた事例を利用し、インデックスをつけて類型・分類する。こうしたインデックスに基づいて比較対象となるような類型のケースを増やす方法も考えられる。
- ・ 住民との面識も出来ているので、昨年度調査を実施した地域の中から、市町村等の協力状況を考慮して上で選定した方がよい。(北園委員、小川委員長)

- ◆ 今後のスケジュール：第2回委員会は、1月26日を予定。